

福岡市の図書館のあゆみ 展

- ・会期：平成 28 年 6 月 4 日(土)～7 月 31 日(日)
- ・会場：福岡市総合図書館 1 階 ギャラリー

はじめに

福岡市総合図書館は、図書資料部門・文書資料部門・映像資料部門からなる多彩な機能を持った新しいかたちの図書館として平成 8 年に開館して以来、皆様のおかげをもちまして 6 月 29 日で 20 周年を迎えます。

福岡市では、総合図書館ができる以前にも、様々な形の「図書館」があり、本や資料を収集・保存し、人々の利用に供する取り組みが行われてきました。

そこで、江戸時代から現在までの福岡市における「図書館」のあゆみについて、当館が所蔵する歴史的公文書などの資料を通して振り返ります。

○福岡市の図書館のあゆみ 関連年表

和暦	西暦	月	日	事項
文政元	1818	八		榊田神社に榊田文庫(櫻雲館)設置
明治三二	1899	一	一一	明治政府が『図書館令』公布
明治三五	1902	一〇	一七	廣瀬玄銀により私立福岡図書館開館(現・中央区大手門一丁目)
大正五	1916	五		福岡県が『福岡県公立図書館費補助規定』制定
大正六	1917			私立福岡図書館開館
大正六	1917			福岡県内の各町村において公立図書館設置
大正七	1918	四	二〇	福岡県立図書館落成(現・中央区天神二丁目)
昭和二〇	1945	六	一九	福岡県立図書館 戦災により全焼
昭和二四	1949	七	一	福岡県立図書館 東公園内に移転
昭和二七	1952	一		福岡市立移動図書館開始
昭和二九	1954	四		福岡市中央公民館設置(現・中央区天神一丁目)
昭和二九	1954	一	一八	福岡市中央公民館に少年図書室(通称少年図書館)を設置
昭和二九	1954	一	一八	福岡市中央公民館に少年図書室(通称少年図書館)を設置
昭和三九	1964	一	三	福岡県立図書館が福岡県文化会館(現・中央区天神五丁目)に移転開館(県立美術館との複合施設)
昭和四六	1971	五	五	福岡市立少年文化会館開館、少年図書室を設置
昭和五一	1976	六		福岡市民図書館の移動図書館車「青い鳥号」による巡回貸出開始
昭和五一	1976	五	三〇	福岡市民図書館(博多区築港本町)「旧博多パラダイス(ブレイランド)建物」を転用
昭和五二	1977	七	一六	福岡市民図書館の移動図書館車「青い鳥号」による巡回貸出開始
昭和五三	1978	七	二二	南市民センター開館、図書室の利用開始(現・福岡市南区)
昭和五五	1980	三	二二	中央市民センター開館、図書室の利用開始(現・福岡市中央区)
昭和五五	1980	五	五	福岡市民図書館内に、こども図書館を併設(国際児童年を記念)
昭和五六	1981	七	一	福岡市民図書館に電算機を導入(九州初)
昭和五七	1982	二	一四	西市民センター(現・早良市民センター)開館、図書室の利用開始(現・福岡市早良区)
昭和五八	1983	八	二六	博多市民センター開館、図書室の利用開始(現・福岡市博多区)
昭和五九	1984	八	一	城南市民センター開館、図書室の利用開始(現・福岡市城南区)
昭和六三	1988	一	一	西市民センターを早良市民センターに名称変更(現・福岡市西区)
昭和六三	1988	三	一	福岡市総合図書館、図書室の利用開始
平成元	1989	七	二〇	福岡市総合図書館基本構想委員会発足
平成二	1990	二	二七	福岡市総合図書館基本構想答申
平成三	1991	一	三一	福岡市総合図書館基本計画答申
平成七	1995	七	五	福岡市総合図書館 竣工
平成八	1996	六	二九	福岡市総合図書館のプレスセンターとして利用(ユニバーシアード)
平成一二	2000	一	三〇	福岡市博多南図書館開館
平成一四	2002	五	二五	福岡市文学館開設(福岡市総合図書館・赤煉瓦文化館を活用)
平成一五	2003	八	九	福岡市和白図書館開館
平成二二	2010	七	二〇	福岡市西部図書館開館
平成二八	2016	六	二九	福岡市総合図書館開館二十周年

【参考】福岡市内のできごと

和暦	西暦	事項
天明四	1784	志賀島で金印発見
明治二二	1889	福岡市市制施行(人口五万人)
明治三二	1899	博多港開港
明治四二	1909	日本生命九州支店(現・赤煉瓦文化館)完成
明治四三	1910	福岡電気軌道(後の西鉄路面電車)開業
明治四四	1911	九州帝国大学(現・九州大学)設立
大正一一	1922	九州鉄道(現・西鉄天神大牟田線)開業
昭和四	1929	大濠公園開園
昭和一六	1941	太平洋戦争開戦
昭和二〇	1945	福岡大空襲・終戦
昭和二三	1948	平和台陸上競技場完成開業
昭和二五	1950	平和台野球場完成
昭和二八	1953	福岡市動物園開園
昭和三〇	1955	福岡市の人口が五〇万人を突破
昭和三八	1963	博多駅が現在地に移転
昭和三九	1964	東京オリンピック開催
昭和四七	1972	福岡市が政令指定都市に移行し、区制施行(東区・博多区・中央区・南区・西区)
昭和五〇	1975	福岡市の人口が一〇〇万人を突破
昭和五一	1976	天神地下街開業
昭和五三	1978	福岡大洪水(給水制限二八七日)
昭和五四	1979	西鉄路面電車全線廃止
昭和五五	1980	福岡市美術館開館
昭和五六	1981	広州市からパンダ来福
昭和五七	1982	福岡市高速道路開通(香椎・東区)
昭和五八	1983	福岡サンパレス・福岡国際センター開館
昭和五九	1984	西区を分区分(西区・早良区・城南区)、七区となる
昭和六二	1987	平和台野球場で湧腫腫瘍発見
昭和六六	1986	福岡市地下鉄 箱崎線 全線開業
昭和六九	1989	福岡市市政施行一〇〇周年
平成元	1989	アジア太平洋博覧会(よかトピア)開幕
平成二	1990	福岡市地下鉄 空港線 全線開業
平成五	1993	福岡市地下鉄 空港線 全線開業
平成七	1995	藤枝ブルックス(現・アビスパ福岡)福岡移転
平成八	1996	ユニバーシアード(福岡大会)開催
平成一一	1999	福岡アジア美術館開館・博多座開場
平成一二	2000	九州・沖縄サミット(福岡蔵相会合)開催
平成一三	2001	第九回世界水泳選手権大会開催
平成一七	2005	市営地下鉄七隈線開業
平成二二	2010	福岡県西部支庁発生
平成二三	2011	JR博多新幹線全線開業
平成二五	2013	福岡市の人口が一五〇万人を突破

○櫛田文庫

福岡市内で、図書館（文庫）と呼ばれたものについて時代をさかのぼって見てみますと、江戸時代後期の文政元(1818)年8月に、櫛田神社（博多区上川端町）の敷地内に、「櫛田文庫くしだぶんこ（櫻雲館おうんかん）」が設置されています。

『筑前名所図会』の「櫛田神社」の図には、「文ぶん」と表記されています。

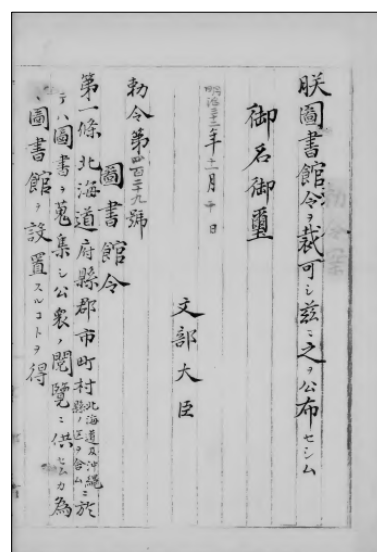
「櫛田文庫」の管理について定めた『櫛田神社文庫出納之定』には、「くしだじんじやぶんこすいとうのさだめ 図書の借用資格として、博多津の櫛田神社の氏子及び図書の寄進者 とされており、博多町人にも閲覧・借用ができる、今日の一般に開放された図書館の役割を果たしていました。

○図書館令

明治 32(1899)年 11 月 11 日、日本で最初の図書館に関する単独の法令として『図書館令』が公布されました。

図書館について、「近時教育機関ノ整備ト社会ノ進運ト二伴ヒ本案ノ制定ヲ要スルモノニシテ緊要ノ施設ト思考ス」として、府県郡における図書館の設置を奨励するものでした。

(国立公文書館デジタルアーカイブズ資料)



○私立福岡図書館

明治 35(1902)年 10 月 17 日、荒戸町通り(現在の中央区大手門1丁目)にあった出雲大社福岡分院の敷地内に、分院長のひろせげんちやう 広瀬玄銀 が私財を投入し、福岡市で最初の近代的図書館である「私立福岡図書館」を開設しました。

開設当時、和漢洋書約2万3千冊の蔵書を有する、全国的にも最高水準の図書館でしたが、広瀬玄銀の死亡や福岡県立図書館の設立に伴い、大正6(1917)年に閉鎖されています。

『福岡県名所図録図絵』には、本殿近くに「図書館」と記載された建物があります。

また、展示の瓦は、当時の「私立福岡図書館」の建物の瓦で、「図書館」の「書」の文字が刻まれています。



(私立福岡図書館の軒先瓦……寄贈資料)

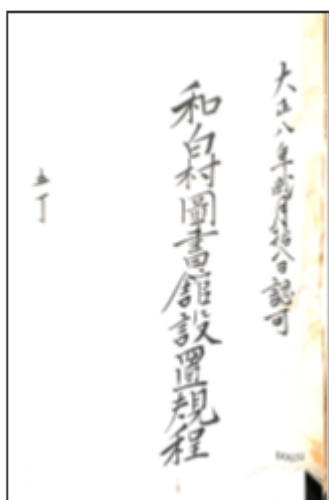
○町村立図書館

明治 32(1899)年の『図書館令』の公布や、大正 5(1916)年の『福岡県公立図書館費補助規定』の制定により、各地の市町村に図書館を設置する気運が高まり、市町村合併により現在は福岡市域となった旧町村でも、大正時代に次々に図書館が設置されました。多くは小学校に設置された小規模なもので、日中戦争～太平洋戦争中にかけて閉鎖されています。

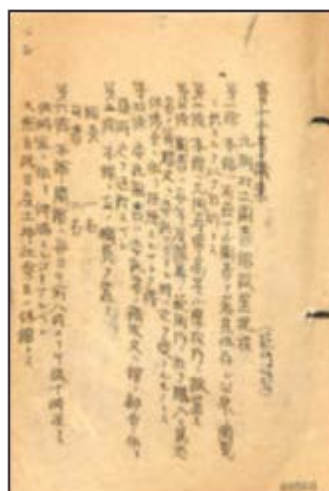
当館では、合併町村の文書資料として、旧和白村、旧今宿村、旧元岡村の図書館設置規程を保存しています。

福岡県下 町村立図書館の設置状況 大正8(1919)年5月調
(大正8年6月20日付福岡県立図書館報第9号より、現在の福岡市域分を抜粋)

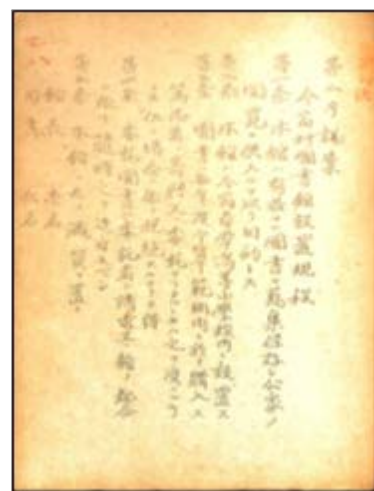
設置年月	館名	所在地	蔵書数	大正7年度 閲覧人員
大正 6年6月	千代町立図書館	筑紫郡千代町	258	450
大正 7年3月	八幡村立図書館	筑紫郡八幡尋常高等小学校内	98	89
大正 7年4月	香椎村立図書館	粕屋郡香椎尋常高等小学校内	616	-
大正 7年4月	北崎村立図書館	糸島郡北崎尋常高等小学校内	70	240
大正 7年8月	今宿村立図書館	糸島郡今宿尋常高等小学校内	143	510
大正 8年2月	箱崎町立図書館	粕屋郡箱崎尋常高等小学校内	45	37
大正 8年3月	和白村立図書館	粕屋郡和白尋常高等小学校内	41	-
大正 8年3月	多々良村立図書館	粕屋郡多々良尋常高等小学校内	367	356
大正 8年4月	元岡村立図書館	糸島郡元岡尋常高等小学校内	93	-
大正 8年4月	西新町立図書館	早良郡西新尋常高等小学校内	-	-
大正 8年4月	内野村立図書館	早良郡内野尋常高等小学校内	224	-
大正 8年5月	原村立図書館	早良郡原尋常小学校内	-	-



(旧和白村 図書館設置規程)



(旧元岡村 図書館設置規程)



(旧今宿村 図書館設置規程)

○福岡市中央公民館 少年図書室

福岡市内には戦前から福岡県立図書館がありました。福岡市立の図書館としては、薬院堀端（現在の中央区天神1丁目、現・中央警察署付近）にあった「福岡市中央公民館」内に、昭和29(1954)年11月18日に併設された少年図書室(通称 少年図書館)が最初です。

「福岡市中央公民館」は、戦前に造られた「福岡市通俗博物館」と「福岡市記念館」（講演会場）を転用したもので、少年図書室の利用にあたっては、現在と異なり、図書の貸し出しが有料（1冊10円）でした。（参考：当時の国家公務員(大卒I種)初任給：8,700円）

写真は、福岡市巡回図書館車「青い鳥号」と少年図書館内での指導の様子です。

なお、少年図書室は、施設の老朽化や福岡市少年科学文化会館 図書室の開設に伴い、昭和45(1970)年5月に閉鎖されています。



(福岡市中央公民館(旧・通俗博物館)と巡回図書館車「青い鳥号」 --写真資料 157-26-2)



(少年図書館での指導の様子--写真資料 157-26-3)

○福岡市民図書館

福岡市は、昭和47(1972)年に政令指定都市になりましたが、市内には、福岡市少年科学文化会館 図書室や福岡県立図書館しかありませんでした。

市立の図書館を、という市民の強い要望を受け、昭和51(1976)年5月30日、博多区築港本町の博多ふ頭ターミナル前に、民間の娯楽施設（博多パラダイス）の建物を改装した「福岡市民図書館」が開館しました。

開館時蔵書は7万8千冊で、6月からは巡回図書館車「青い鳥号」による巡回貸出が開始されました。

図書館に隣接して博多ポートタワーがあり、学習室からは博多湾を一望できることから「海に見える図書館」として市民に親しまれました。

また、国際児童年を記念して、昭和55(1980)年5月5日に「こども図書館」が併設され、子どもから大人まで幅広く利用される施設でした。



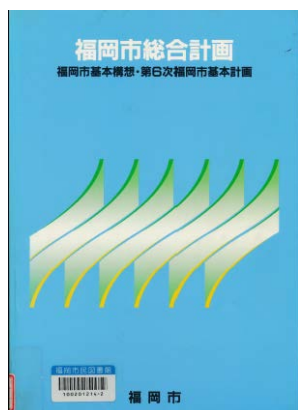
(図書館だより--行政資料)

○福岡市総合図書館

「福岡市民図書館」は、市民に親しまれ、利用者も増加していましたが、施設は図書館として建設されたものではなかったことから、構造面の不備や書庫容量の不足があり、また、老朽化も進んできました。

このため、昭和 63(1988)年に策定された福岡市の第 6 次マスタープランにおいて、「高度な情報提供機能を持った図書館を新設する」という計画が示されました。

その後、『図書館基本構想答申』、『図書館基本計画答申』等を経て、平成 5(1993)年 11 月に「福岡市総合図書館」の建設に着工し、平成 7 年(1995)に竣工しました。



(「福岡市総合計画」--行政資料)



(建設工事中の福岡市総合図書館 写真資料 114-1-1)

竣工後、同年 7 月から 9 月までの間は、その年に福岡市で開催された第 18 回夏季ユニバーシアードのプレスセンターとして活用されました。

そして、平成 8(1996)年 6 月 29 日、多彩な機能を持つ生涯学習推進の中核施設として、図書資料部門、文書資料部門、映像資料部門の 3 部門からなる「福岡市総合図書館」が開館しました。



(福岡市総合図書館)

また、平成 14 年(2002)年 5 月 25 日には、福岡市総合図書館と福岡市赤煉瓦文化館を活用し、福岡ゆかりの作家等に関する文学資料の収集、整理・保存、展示を行う「福岡市文学館」が開設されました。



(福岡市赤煉瓦文化館)

○総合図書館 映像資料部門 (福岡市フィルムアーカイヴ)

福岡市総合図書館に設置された映像資料部門 (福岡市フィルムアーカイヴ)は、映画を通じたアジアとの文化交流・国際貢献を目的として、映画の収集・保存・公開・調査研究を行い、映画によるアジア文化の普及振興に努めています。

映像ホール・シネラでは、日替わりで様々なプログラムを組み、収集作品を公開するとともに、映画の魅力を気軽に市民の皆様に楽しんでいただけるよう工夫しています。



(映像ホール・シネラ)

○各区の図書館分館

昭和 52(1977)年 7月、東市民センター図書室が開館し、その後、各区の市民センターや地域交流センターなどに、順次、図書室が整備されました。

これらは、総合図書館開館に伴い、分館として位置づけられ、蔵書の検索、予約、配本ができるネットワークが構築されました。

- ・昭和 52(1977)年 7月 東市民センター図書室 (現・東図書館)
- ・昭和 53(1978)年 7月 南市民センター図書室 (現・南図書館)
- ・昭和 55(1980)年 3月 中央市民センター図書室 (現・中央図書館)
- ・昭和 57(1982)年 2月 西市民センター (現・早良市民センター) 図書室 (現・早良図書館)
- ・昭和 58(1983)年 8月 博多市民センター図書室 (現・博多図書館)
- ・昭和 59(1984)年 8月 城南市民センター図書室 (現・城南図書館)
- ・昭和 63(1988)年 3月 西市民センター図書室 (現・西図書館)
- ・平成 12(2000)年 1月 博多南図書館 (博多南地域交流センター[さざんびあ博多] 内)
- ・平成 15(2003)年 8月 和白図書館 (和白地域交流センター[コミセン和白] 内)
- ・平成 22(2010)年 7月 西部図書館 (西部地域交流センター[さいとぴあ] 内)
- ・平成 28(2016)年 6月 東図書館 香椎副都心公共施設 (なみきスクエア) に移転



(東市民センター開館時の市民ニュース)

主な参考文献

書名／(巻号)／著者名／出版社名／出版年月

- ・菊池租図書館学論集 菊池 租／著 木村 秀明／編集 菊池租図書館学論集刊行会 1986
- ・九州図書館史 西日本図書館学会／編 西日本図書館学会九州図書館史研究委員会／編著
千年書房 2000.11
- ・筑前名所図会 巻の2 博多 奥村 玉蘭／著 西日本新聞社 1973
- ・図書館要覧 昭和52年度～平成7年度 福岡市民図書館／[編] 福岡市民図書館 1977～1995.7
- ・図書館要覧 平成8年度～平成27年度 福岡市総合図書館／編 福岡市総合図書館 1996～2015.8
- ・福岡アメリカン・センター40年 福岡アメリカン・センター40年展実行委員会／編 福岡
日米協会福岡アメリカン・センター40年展実行委員会 1993.7
- ・福岡県教育百年史 第3巻 資料編 大正・昭和1 福岡県教育百年史編さん委員会／編集
福岡県教育委員会 1978.11
- ・福岡県史 通史編[1] 福岡藩文化 上 西日本文化協会／編纂 福岡県 1993
- ・福岡県百科事典 上 あ～そ 西日本新聞社福岡県百科事典刊行本部／編集 西日本新聞社 1982
- ・福岡県百科事典 下 た～わ 西日本新聞社福岡県百科事典刊行本部／編集 西日本新聞社 1982
- ・福岡県名所図録図絵 清水 吉康／著 大蔵出版会 1983.9
- ・福岡市早良図書館報 第7号～第10号 福岡市図書館小史①～④(力武豊隆／著)
福岡市早良図書館／編集 福岡市早良図書館 2003～2004
- ・福岡市史 第7巻 昭和編 後編3 福岡市役所／編集 福岡市役所 1974
- ・福岡市史 第13巻 昭和編 続編5 福岡市／編集 福岡市 1996
- ・福岡市新図書館基本計画 平成3年2月 福岡市教育委員会社会教育部(新図書館建設準備担当副主幹)／[編]
福岡市教育委員会社会教育部(新図書館建設準備担当副主幹) 1991.2
- ・福岡市新図書館基本構想 平成2年2月 福岡市教育委員会社会教育部社会教育課／編
福岡市教育委員会社会教育部社会教育課 1990.2
- ・福岡市総合計画 福岡市基本構想・第6次福岡市基本計画 福岡市総務局企画調整部企画調整課／編集
福岡市総務局企画調整部企画調整課 1988.9
- ・福岡市総合計画実施計画 1988～1992年度(昭和63～平成4年度) 福岡市総務局企画調整部企画調整課／編集
福岡市総務局企画調整部企画調整課 1989.3
- ・福岡市における図書施設の利用実態調査報告書 1989年3月 各図書施設の利用者アンケート調査
福岡市民図書館／[編] 福岡市民図書館 1989.3
- ・国立国会図書館デジタルコレクションホームページ <http://dl.ndl.go.jp/>
- ・福岡県立図書館ホームページ <http://www2.lib.pref.fukuoka.jp/>
- ・西日本新聞 平成8年6月28日号